

福島・御前清水遺跡 ごぜんしみず

- 1 所在地 福島県耶麻郡山都町大字三津合字諏訪南
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)九月
- 3 発掘機関 山都町教育委員会
- 4 調査担当者 古川利意
- 5 遺跡の種類 遺物散布地
- 6 遺跡の年代 縄文時代、古代末～中世前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(喜多方)

御前清水遺跡は、会津地方西北部に位置し、只見川によって形成された中位段丘崖下に営まれた遺跡である。一九八一年、灌漑排水工事の際に土師質土器・鉄滓・羽口等が出土し、それとともに墨書のある木製品が二点採集された。一九八四年に周辺地域の開発行為に対処して遺跡保護計画を作成するため試掘調査が実施された。その結果、住居跡等の遺構は発見できなかったが、一二世紀後半期を中心とする土師質土器に伴って多量の木製品(下駄・ヨコツチ・塔婆状木製品等)・植物遺存体が出土し、低湿地性遺跡であることが判明した。二点の墨書のある木製品もこの時期のものであろう。なお、遺跡名は最近まで諏訪南としていたが、一九八四年御前清水に改称した。

8 木簡の积文・内容

(1) <大日如来

浄者□□始法蓮 華経
禅僧 仁王

(96)×(31)×5 061

(2) <南无阿弥陀仏

(210)×(18)×3 061

9 関係文献

福島県山都町教育委員会『御前清水遺跡』(一九八五年)

(芳賀英一)

